

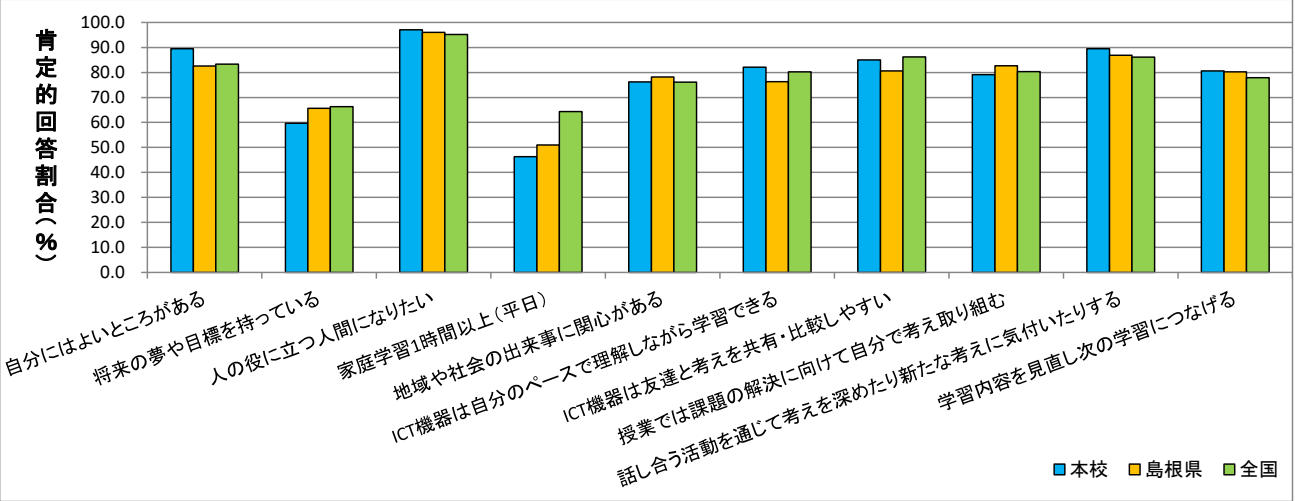
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○平均正答率が全体的に県平均よりも高かった。特に、知識技能の項目は高い正答率だった。 ●思考力判断力表現力の「読むこと」の正答率が低かった。	・文章の読み取り問題に力を入れて指導していく。 ・知識技能は力がついてきているので、それを応用できる力を身につけさせていく
数学	○小学校6年生の全国学力調査と比較すれば、全国や県の平均との差は小さくなっている。 ●すべての領域、評価の観点で全国や県の平均より低い。特にデータの活用が10%以上低い。	・計算などの基本問題はできつつあるが、活用問題にあまり慣れていないので、授業でいろいろな活用問題を取り入れていく。 ・データの活用に関しては、箱ひげ図の復習を入試対策と合わせて行う。

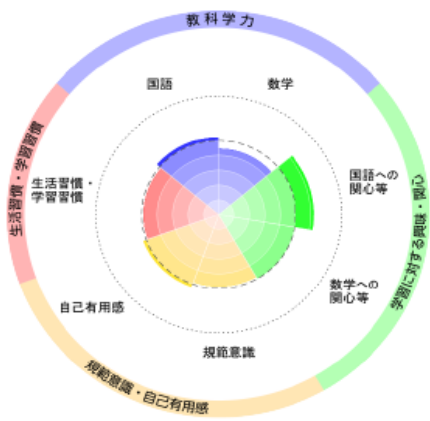
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○自分にはよいところがある、と答えた生徒の割合が、この学年の過去の調査や昨年度の3年生と比べて多い。 ●平日の家庭学習1時間以上の生徒の割合が非常に低く、半数以下である。 ●将来の夢や目標を持つ生徒の割合が低い。	・学年課題や、各教科での宿題の量を増やす。 ・保護者の方と連携して、家庭学習時間を増やすための取り組みを行う。 ・キャリア教育や進路学習の時間数を増やし、将来について考える機会を多くする。

(3)質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・支援の必要な生徒について、少人数授業やT2授業を継続して行い、きめの細かい指導につなげる。
・各教科の授業や家庭学習で、ICT機器の活用による基礎学力の向上に向けた取組を進めていく。
・経験年数の少ない教員とベテラン教員の授業交流の機会を増やし、教員集団での指導力向上を目指す。

【受検者数】
67 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。